

ごあいさつ

江戸時代の須賀川は奥州街道の要衝の地として栄え、物資の集散や文人墨客の交流が盛んに行われ、経済的にも文化的にも繁栄をきわめていました。元禄2年（1689）、おくのほそ道行脚の途次訪れた芭蕉が8日間も滞在したように、俳諧をはじめとして高度な町人文化が花開いておりました。

特に、江戸時代を代表する洋風画家・亜欧堂田善は、繊細優美な風景銅版画を完成いたしました。文化7年（1810）のわが国最初の官製による銅版画世界地図『新訂万国全図』の完成は、文明開化に大きな役割を果たし、また、『医範提綱附図』の解剖図は、わが国西洋医学の黎明に画期的な貢献をいたしました。

亜欧堂田善は須賀川を語る際、第一に挙げられる人物でありますので、当館としましては昭和45年の開館以来、作品の収集、保存に努めてきました。

昭和51年、須賀川市諏訪町の医師・太田宏一氏が祖父貞喜氏の収集した亜欧堂田善の銅版画等の資料を当館に寄贈されました。これらは当市の文化、歴史資料としてばかりでなく、わが国洋風画の研究の上からも極めて貴重な資料であります。昭和61年、福島県教育委員会は「太田貞喜の亜欧堂田善コレクション」を高く評価し、県重要文化財に指定されました。

その後、市原良彦氏、安藤梅子氏、矢部尚一氏、柳沼甚四郎氏、高久田金三郎氏の各氏より銅版画、木版画、素描、銅版画制作用具、日本画等々の作品、関係資料のご寄贈をいただきました。

そして、亜欧堂田善生誕250年記念の平成10年に、特別展『江戸の和蘭人 亜欧堂田善』を、東京国立博物館をはじめ多くの博物館、美術館、ご所蔵家の皆様のご協力をいただき開催することができました。当市にとりましては誠に意義深いことであります。

当館としましては、これを機会にあらためて、今後とも亜欧堂田善関係資料の収集、保存に一層の努力をいたす所存であります。

このたび、開館以来収集、保存してきました亜欧堂田善の作品、関係資料の図録を須賀川市立博物館調査研究報告書第12集として刊行することといたしました。この報告書が亜欧堂田善の芸術を理解するうえで、その一助となれば幸いです。

平成13年3月

須賀川市立博物館長 横山 大哲